

<参考資料>

**全国男女 1,000 人の意識調査から見た、今こそ求められる
「花贈りコミュニケーション」 = 「花贈り n a v i」の必要性？！**

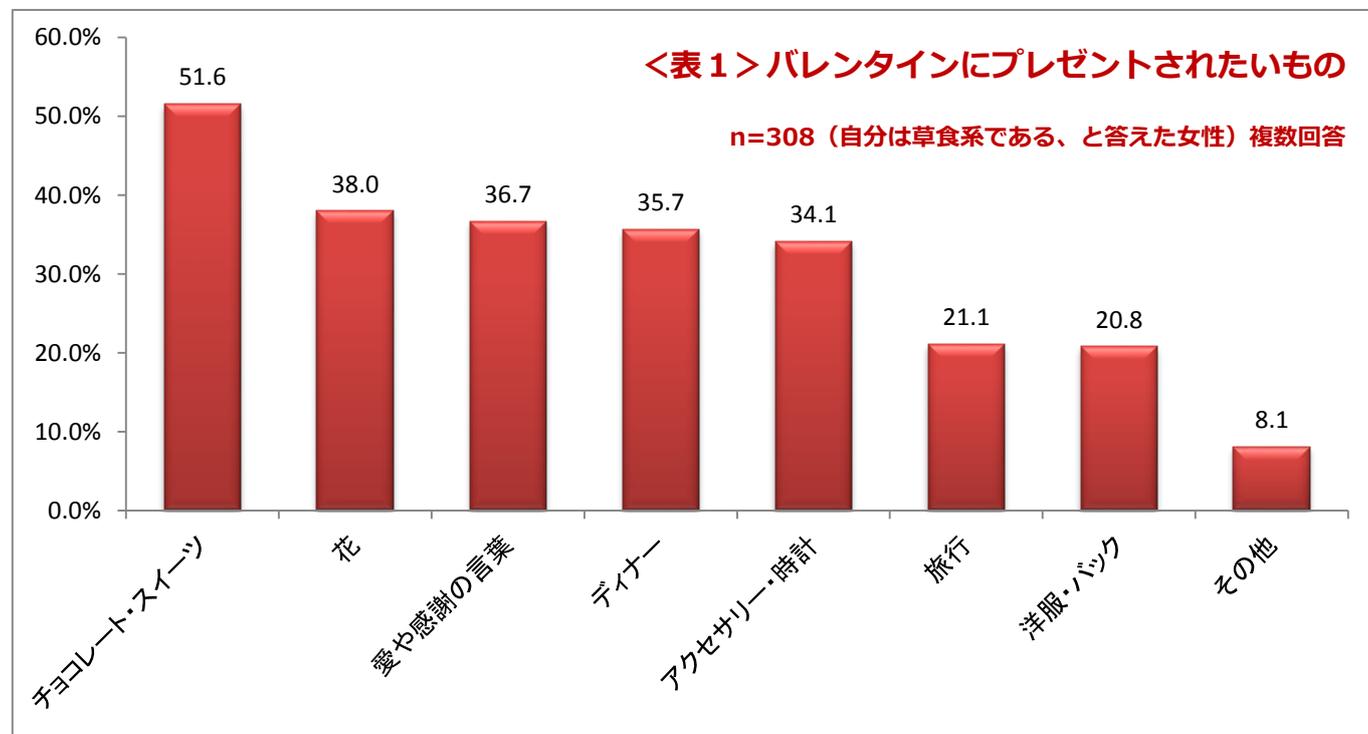
当委員会は、全国 20 代～50 代男女の花贈りに関する調査（「花と恋愛の相関図」2013 年 11 月に実施、n=1000）を行いました。そこには、男女のコミュニケーションにおける興味深い結果があらわになりました。大切な人との良好な関係を築くために、多くの男女が「記念日」などを通じて様々な行動を実行しています。特に男女間ではそれらのシーンを相手の心に刻みたいという「思い」が元になっているようですが、「花贈り」というひとつのアクションが、有効な意義をもつことが見えてきました。「花贈り n a v i」が男女のコミュニケーションにおけるアプローチツールとして必要なアプリであることを裏付ける調査結果の一部を、以下に記載します。

■バレンタインデーに女性が最も欲しいのは「愛や感謝の言葉」

6 割を超える自称・草食系女子は、チョコレートやスイーツと共に、「花」が欲しい

全国 20 代～50 代の女性 500 人にバレンタインデーに最もプレゼントされたいものを調査したところ、全世代の 21.8%が「愛や感謝の言葉」と答え、バレンタインに欲しいもののランキング 1 位となりました。5 人に 1 人の女性は、目に見えない愛情や相手の気持ちを求めていることがわかります。

また昨今、肉食系女子の増加という話題が取り沙汰されていますが、「自分はどちらかという草食系」と答えた女性は 500 人中 308 人おり（全体の 61.6%）、それらの女性に「バレンタイン」にプレゼントされたいもの（複数回答）を聞いたところ、「チョコレートやスイーツ」が 51.6%で第 1 位、38%の女性が「花」と回答し「花」が第 2 位という結果になりました<表 1>。



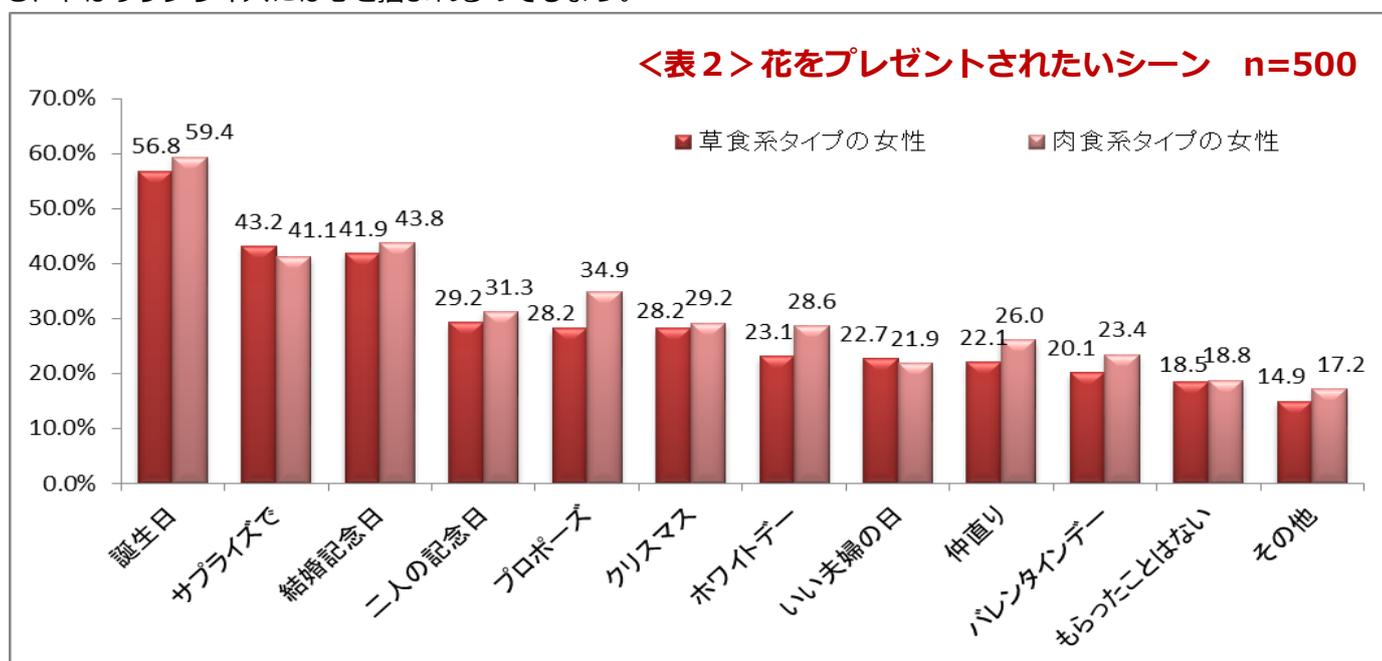
花をもらう時、84%の女性が「嬉しい」「相手を好きになる」「見直す」など好意的な気持ちを抱いていることも今回の調査で明らかになっていることから、「愛や感謝の言葉」と同じように、「花」には相手の心を引き寄せるために最もふさわしいプレゼントの一つと言えるのではないのでしょうか。

《本件に関するお問い合わせ》

フラワーバレンタイン推進委員会 事務局 担当 本田 TEL : 03-3664-8739 FAX : 03-3664-8743 MAIL: jfpc@jfpc.or.jp

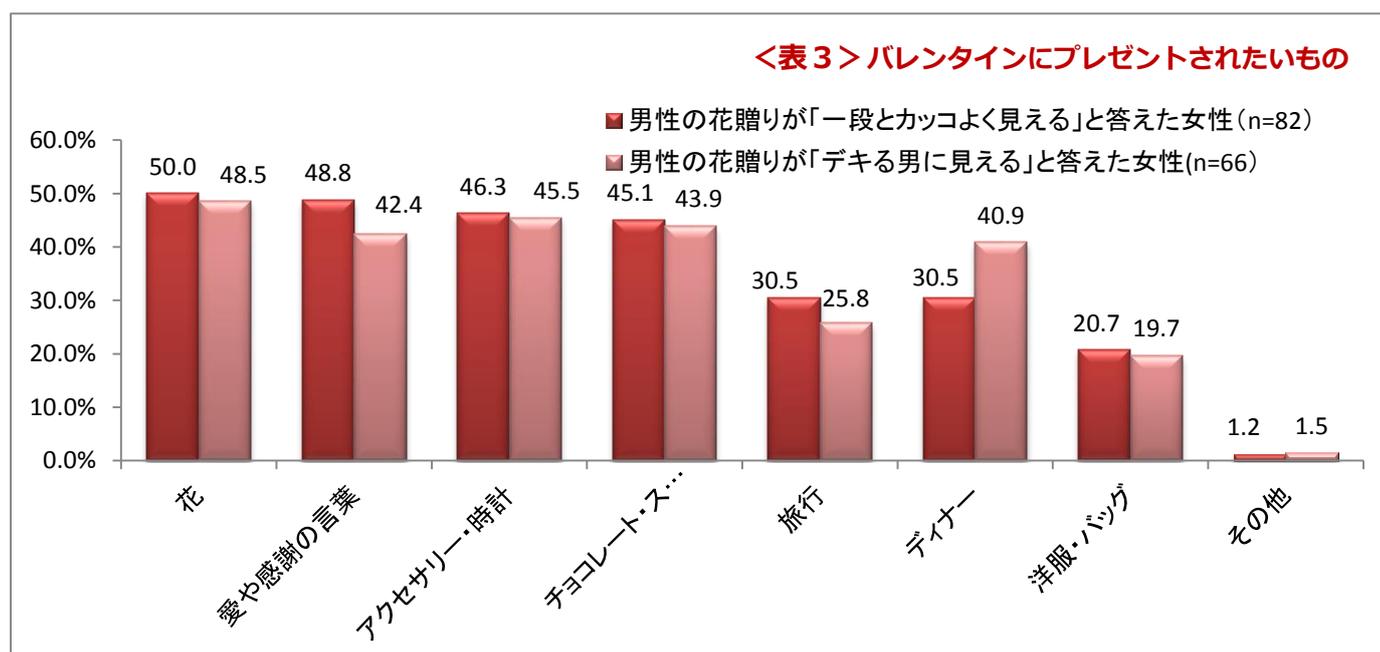
■どんなタイプの女性も“サプライズ”に弱い？！

どんなシーンで花を贈ってほしいかという質問に対し、女性の42.4%が「サプライズ」のシーンで、と答えたことが今回の調査で明らかになりましたが、自分が草食系と思う女性と肉食系と思う女性の回答をみても、共に同じように、花をもらう時にはサプライズシーンを希望しているという結果となりました<表2>。どんなタイプの女性も、やはりサプライズには心を掴まれるのでしょうか。



■男性の花贈りに対し「一段とカッコよく見える」「デキる男に見える」と答えた女性のほぼ半数はバレンタインに「花」を贈られたいと思っている。

また女性の約85%が、花贈りをする男性に対し「一段とカッコよく見える」「デキる男に見える」などと、好意的なイメージをもっていることがわかり、「一段とカッコよく見える」と答えた女性に「バレンタイン」にプレゼントされたいものを訊いたところ、第1位は50.0%で「花」でした。さらに「デキる男に見える」と答えた女性の「バレンタイン」にプレゼントされたいものも、48.5%で「花」という結果となっています<表3>。



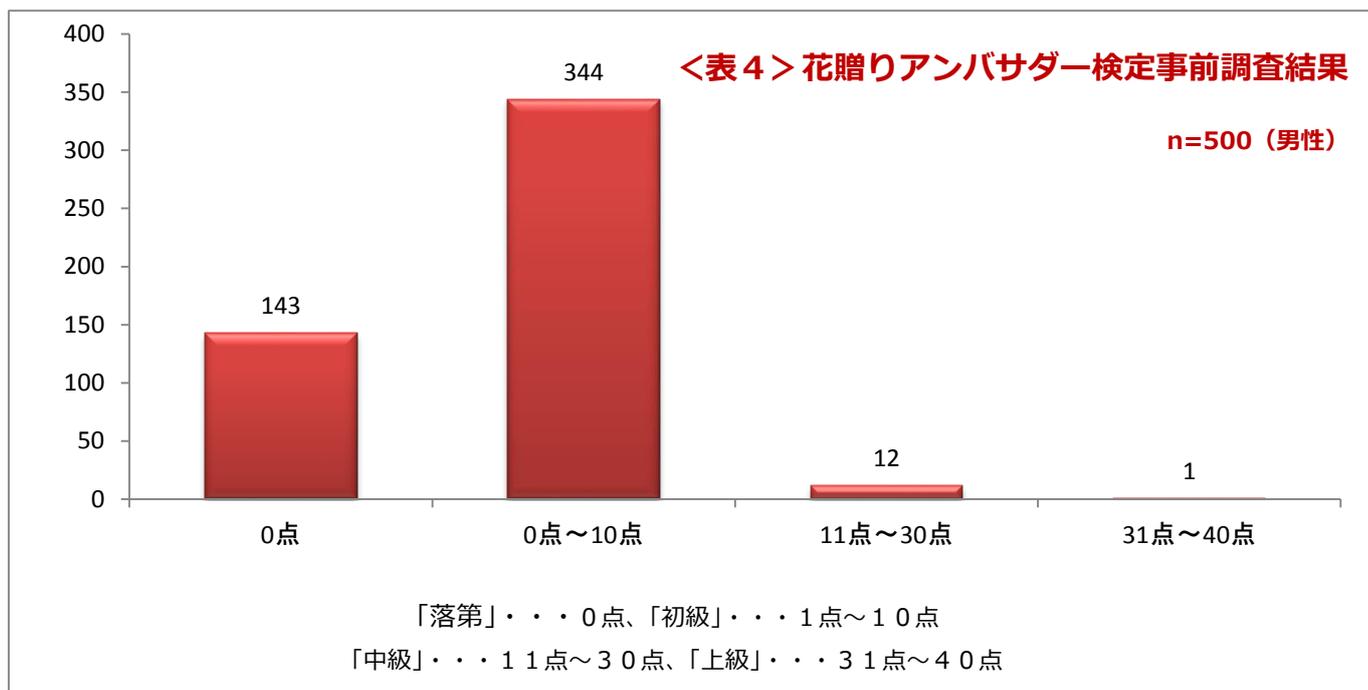
《本件に関するお問い合わせ》

これらの結果から、男性の花贈りを好意的にみている女性（全体の85%）に、“バレンタインに花を贈る”ということは、女性の気持ちに応える一定の効果がある、とみることができるようです。

約一か月後に迫ったバレンタイン。今年は、「愛や感謝の言葉」とともに「花」を贈る男性が、女性の心を掴む、真の勝ち組になる可能性が高いのかもしれませんが。「花贈りn a v i」は、モテたい！デキる男に見られたい！と思う男性にとっては、最適なアプリです。

■男性の花贈り、実態は？！アンバサダー検定事前調査

「花贈りn a v i」の参加型コンテンツ「花贈りアンバサダー検定」では先に述べたように、男性の花贈りにまつわる事柄から花贈り上達度＝“モテ度”を診断します。事前に、この20項目の回答を集計したところ（男性＝500）、38.8%の男性が「花の名前を5個以上知っている」と1得点の項目には答えているものの、「花を贈ることは大人の男のたしなみだ」9.8%、「花は愛の象徴だと思う」8.6%、「パートナーとの思い出の花がある」6.4%など、花を恋愛のツールとして活用する男性はまだ少ないことが分かりました。これを「花贈りアンバサダー検定」の等級に置き換えると以下のような結果となっています<表4>。得点0が143人、全体の68.8%にあたる344人が「初級」レベルでした。「中級」以上はわずか13人とどまっています。



《本件に関するお問い合わせ》

フラワーバレンタイン推進委員会 事務局 担当 本田 TEL : 03-3664-8739 FAX : 03-3664-8743 MAIL: jfpc@jfpc.or.jp

■モテたい男性も、「バレンタイン」の花贈りはほとんどが未経験という結果に。
今度のバレンタインこそ、絶好の機会に。

“異性にモテることにこだわる”と答えた男性（500人中268人）に、パートナーへの花贈り経験シーンを聞いたところ、1位は64.4%で「誕生日」という結果でした<表5>。2位以下は「結婚記念日」、「サプライズ」、「クリスマス」、「二人の記念日」と続きます。パートナーの誕生日は比較的覚えやすい記念日であることからこのような結果になったとも言えますが、女性の大多数が「サプライズ」で花をもらいたいという現状を踏まえると、二人だけの記念日や2位以下にランキングされた記念日に、意識的に“花を添えたサプライズシーン”を演出してもよいのではないのでしょうか。そんな時、花贈りに最適な日をお知らせしてくれる「花贈りn a v i」があれば、サプライズな花贈りの機会を逃さないでしょう。

さらにこの結果で気になるのは、本来、愛や感謝の気持ちを伝える習慣である「バレンタイン」に花を贈ったことがある日本の男性は、わずか6.3%という低い数字であることです。“モテることにこだわる”男性にさえも、バレンタインに「花」を活用していないことが明らかになっています。

これらの調査結果から、約1か月後に迫ったバレンタインこそ、愛や感謝の気持ちを伝える絶好のタイミングともいえます。この機会を「花贈り」のチャンスとして「花贈りn a v i」を活用し、日本の男性に一步踏み出してほしいものです。



フラワーバレンタイン推進委員会は、「男性から女性へ花を贈る2月14日」をキーワードに、日本の花贈りの新しい文化を創出すべく、様々な取り組みをしております。

《本件に関するお問い合わせ》